

翌 檜 新聞



志 寛 錬

第2号
2022.10.6
第76代
伊敷中生徒会



過ごしやすい伊敷中を目指して

制服の更衣期間の見直し



生徒総会でプレゼン発表をする生徒会長

5月12日に行われた生徒総会で審議された「制服の更衣期間の見直し」。そこで議論されたことを基に決められた新たなルールが、10月から試行されることになりました。

今年の生徒総会も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため全校生徒がリモートでの話し合いをする形となりました。去年と同様の形式となりました。目案箱の意見の中から採択して、決まった今回の「更衣期間の見直し」という議題。何のために更衣期間があるのか、疑問に思っている生徒も多かったようです。総会では、各学級をリモートでつなぎながら話し合いが行われ、様々な視点から意見が出されました。

「更衣期間の変更の理由」については、賛成意見として「近年の温暖化により気候変動が大きくなり、決

翌檜新聞の由来とは?

皆さんはこの新聞がなぜ「あすなろ新聞」となっているかをご存じですか。なぜかを調べるため、過去の新聞を見返してみると、なんと昭和15年第五号にその理由が書かれています。その内容はというと「あ

「あすなろ」という言葉にはこのように深い理由があったのです。このような意味が込められているのも、伝統を積み重ねる努力をしてきた伊敷中故かもしれません。新年度が始まってばかりですが、日々の努力を一日一日積み重ね立派な伊敷中生になつていきましょ

(芹ヶ野 結惟)

FACE

姥 英一郎
教頭先生

今回のFACEでは伊敷中学校二回目の赴任である姥教頭先生にインタビューをしました。

Q 伊敷中での思い出は?
A たくさんありますが、一番は体育大会の応援団練習です。解団式では全員が大泣きました。その時に当時の団長が、「私たちは家族だ。」と言っていたのが、そのくらい言えるまで頑張ることができたのだととても心に残っています。
Q 今でも昔と変わらないところは?
A やはり伝統がずっと受け継がれていますね。特に朝作業と残り姿は本当に歴史が長いです。残り姿はほ



(馬場 桐子・松田 大雅)

行期間を設けるという話にまとまりました。今回の試行の中で、新たに覚えてきた課題を踏まえて、正式な校則改定までに逐次見直しを行っていきたくと考えていますので、気付いたことや意見があったら、お知らせいただけると幸いです。大きな決まりを変えるということはとても大変なことです。皆さんの一つ一つの意見をもとに生徒会でもよりよい学校生活の実現に向けて取り組んでいますのでご協力よろしくお願



リモートで各学級を繋ぎ議論を交わす様子

生徒会の窓



連日、ロシアとウクライナに関するニュースが各メディアで報道されています。戦争をするとかくさんの人が苦しみ、悲しむことになりました。それなのに、なぜ戦争が起こってしまったのでしょうか。様々な理由があるかと思いますが、戦争の苦しみや悲しみを忘れかけていることが一つの原因として挙げられるのではないかと思います。実際に戦争を体験し、苦しみや悲しみを知っている人たちが少なくなっています。そういう人たちの話を聴く機会も少なくなっています。戦争の悲しみを伝える人がいなくなっても、その悲しさをみんな考えていく必要があると思います。そのために、私たちは戦争について学ぶことも大事です。伊敷中でも二年生の総合的な学習の時間の中で戦争や平和について学びます。また、人の苦しみや悲しみを想像できないことも一つの原因にあるのではないかと思います。日常生活の中で、周りの人の気持ちを想像して行動することができれば、争いや戦いはなくなるはずなんです。戦争は「どこか遠いところ」で起こっていることではなく、今、私たちが考えていく必要があるのだと思います。(新地 勇太)